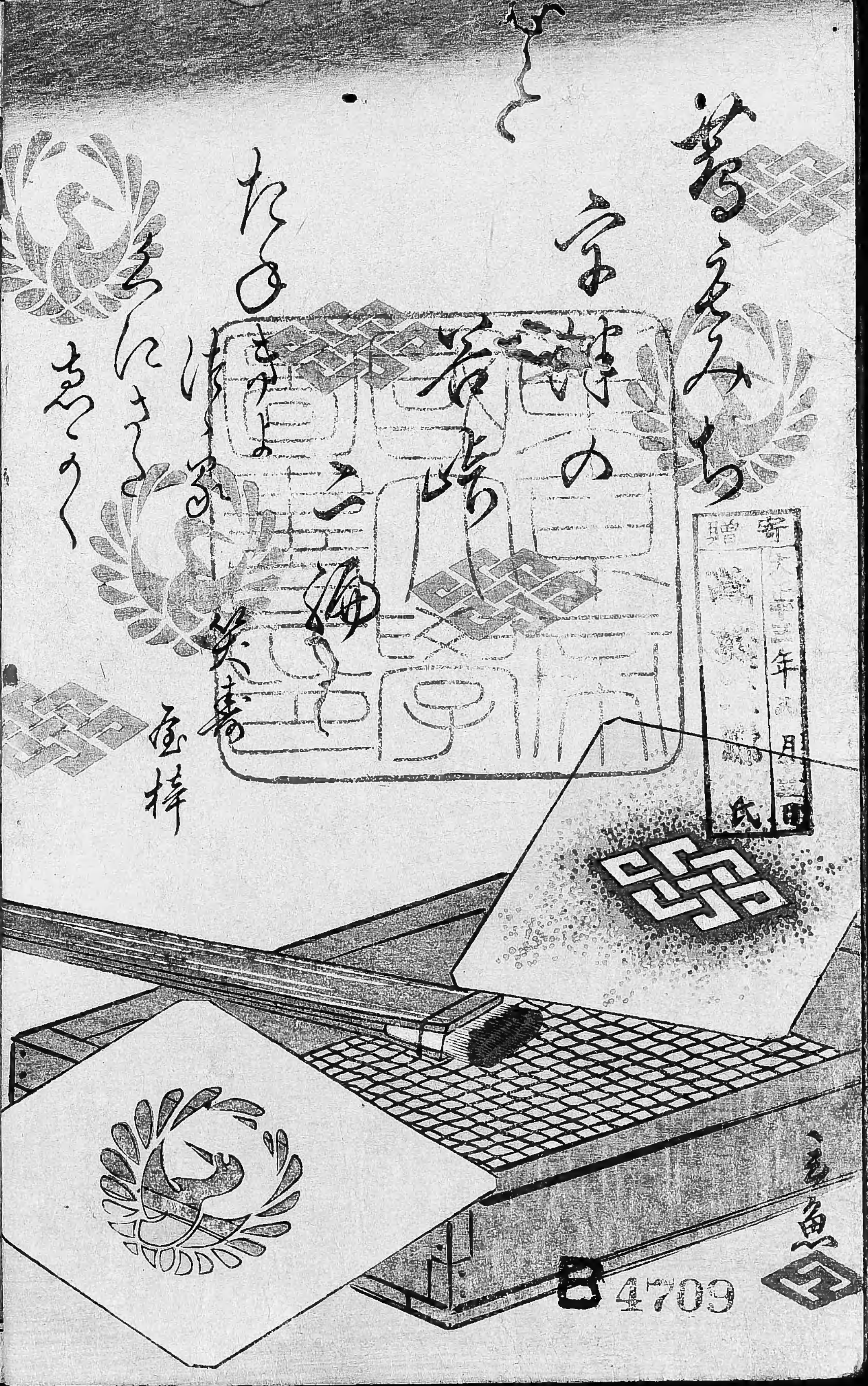
蔦紅葉宇都谷峠　二編

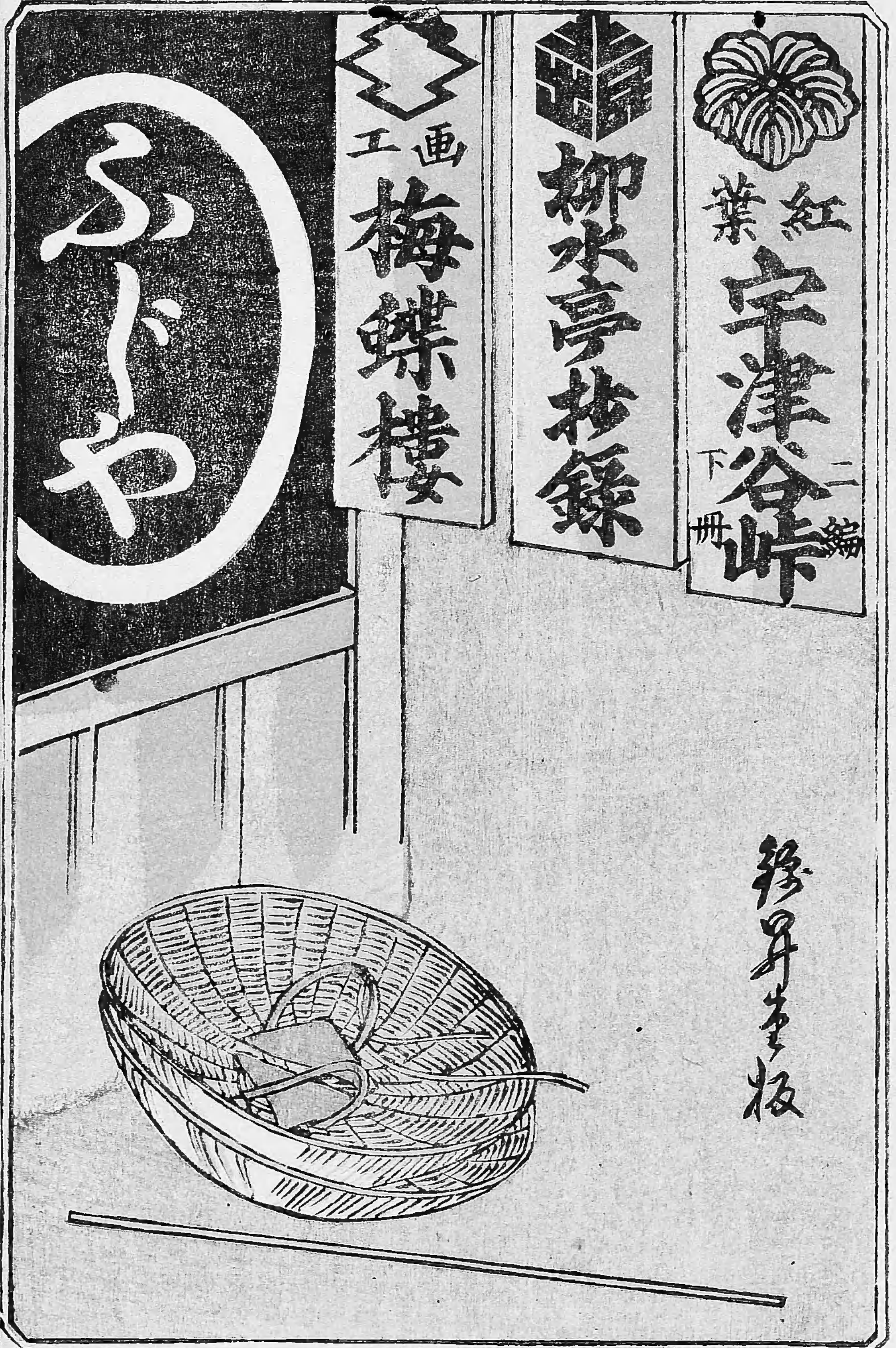
月

E 24
189

月
明治



寄贈 大正三年 月 日 氏
B 4709
0005905?6 5



秋の夜永の睏に饜て窗を開けば方盤の水に照せる星影に
山翁局の碁に倡ふりと吟哦ける詩より結句なる這巻こそ
彷彿ときこゆれ碁を宇津谷嶺あらく提婆をのがれ伊丹屋に
魅られたる文弥が身へ四目殺といふ一手目が無ましへ殺さるゝ心と
勤の細徑に切ても繋ぐ兄弟へ十字堂に像さ腐縁輪ある黒
の胡麻の灰へ飛ぐ曲碁に羸さぬの理に合白の白刃に重兵衛が
十八九員の井目を安んぬるよりも猶強く風鈴につぐ
阿駒才三が白と黒との差別を謂ば女へ白木屋男を
黒き髪を髻る是阳陰黒木屋の彦三あまべ白菊粧ふ

二丁先へ

白木屋娘於駒
丁稚竹松
保柄文八
紅葉二紋

奴よかん平
阿部保名
の葉姫

古今あり吾黒白ハ机上紙墨三蹊
不律把て次手も鈍き二編三編
懦目を鴛鴦切つひ離さで
辛苦其三街と五街の間を四
讀切ハ原故河竹の作まる功
賣話咽吾ハ爛柯の樵夫うんね

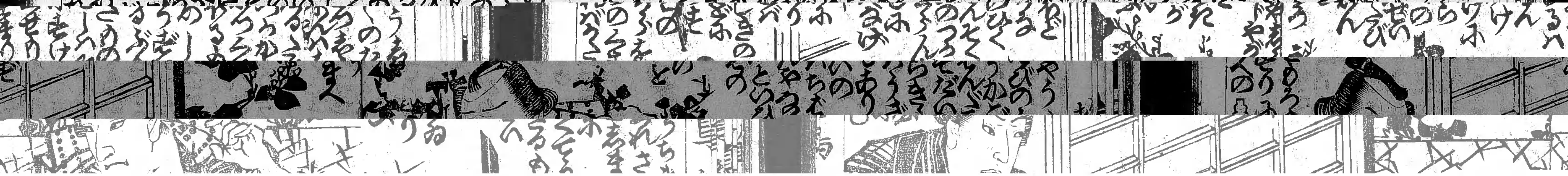
安政三辰年万穀収

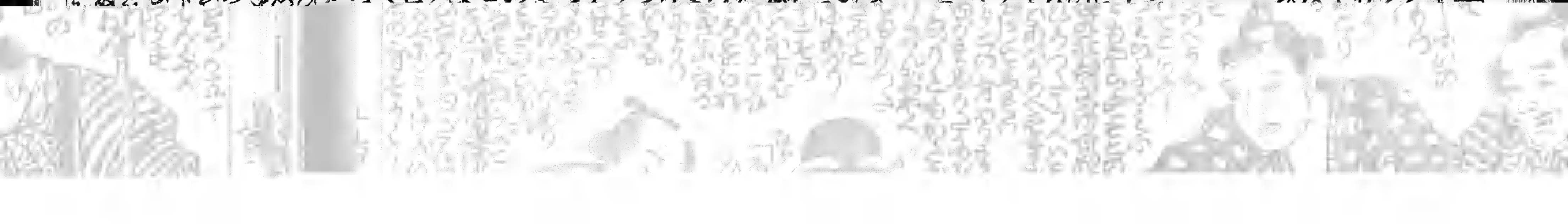
柳水

二

つゞき

[illegible]





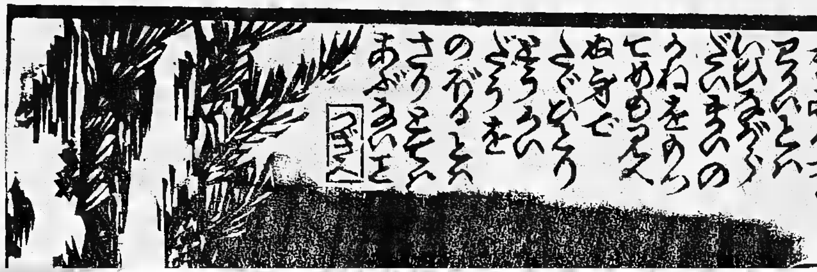
つきさ
さべぶ
ちぐへ
そのり
ヒトぞ
これさ
サア〳〵
あんどんや
ねろそ
ミるそ
そこら
ちやあ
ねはし
あんでは
そりあれ
ミるの
のうり
まうそ
ぜミろ
あとあて
むろい
どきこ
やとの
あんよ
ひさミ
あやう
ぜんざ

[illegible]

とれよ つま[illegible] の[illegible] ら[illegible] か[illegible] の[illegible] と[illegible] ま[illegible] [illegible] え[illegible] も[illegible] [illegible] あ[illegible] あ[illegible] [illegible] か[illegible] づ[illegible] や[illegible] さ[illegible] あ[illegible] [illegible] ま[illegible] け[illegible] の[illegible]

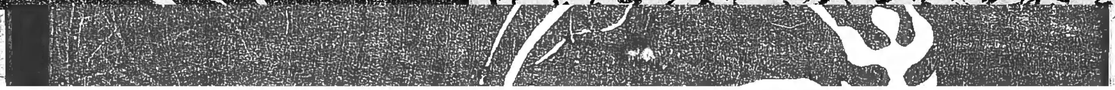
よ[illegible] あ[illegible] き[illegible] 世[illegible] と[illegible] よ[illegible] よ[illegible] の[illegible] べ[illegible] あ[illegible] そ[illegible] [illegible] と[illegible] ど[illegible] よ[illegible] あ[illegible] [illegible] ふ[illegible] [illegible] き[illegible] [illegible] か[illegible] [illegible] [illegible] [illegible] つえ[illegible]

つぎき
ぶんやハ
かくても
こせしと「ヘイど
あんせうろうぞ
さまあへ合ふを
のうしませう
せおつてありま
つくのうちあ
むりつてあり
「ハテナらやあつ
らやらうぞぶあ
せなるかねみ
うまくわでお
うんなそれを
どまのむいがつ
「ぶんはさるぐ



「この者ども」ハイ
らまでぐんの
そうろくへ
らんねを
どうふまりつ
まちろ「ア
ころいとん
いいろぶく
ざいまくの
うねをめら
てめもうて
ぬ守で
さびとくり
ぶうらい
どうを
のぼるとん
さりそをん
あがるいま
つぎへ

中より
あゝさ
ぶ良い
どし
白志
らね
がめる
あんの
なれさ
そろさ
十両で
るんと
だへ〳〵
台らん
「ハテじや
「百五十
りへの
さとる

百五
のご
らふい
いのさう
ンテデ
どるゝの
らふんさち
イざゝぬ
でござん
こと
両と
うち
うの

つぎき
かし
むり
ぶん
せつ
百両
それ
あね
かし